

日系ブラジル人の歴史と現在を知るための 映画上映会とトーク

※入場無料※

日時：1月21日（土）13:00～17:00

形式：対面

会場：神戸映画資料館（JR新長田駅から徒歩5分）

ゲスト：マルコス・ヨシ

（映画監督。現在は名古屋大学に交換研究員として在籍）

プログラム：

- 13:00-13:10 地域連携センター長・板倉史明の挨拶 マルコス・ヨシ監督の紹介
- 13:10-13:30 解説「二つの祖国をもつ人々——日系ブラジル人コミュニティの過去と現在」
（国際文化学研究科大学院生・古川ももこ、サマーラ・マベリ）
- 13:30-13:50 肥田莉奈（神戸大学国際人間科学部3回生）制作作品『映画『蒼氓（そうぼう）』（1937）をめぐって』（6分）の上映と肥田によるトーク
- 13:50-14:20 『レモン』（2004、松原ルマ監督、7分）上映と松原ルマさんのトーク
- 14:30 マルコス・ヨシ監督紹介
- 14:40 映画『再び、お帰り（*Bem-Vindos de Novo*）』（2021、マルコス・ヨシ監督、105分）上映。日本語字幕付き、ブルーレイ上映
- 15:55 上映終了
- 16:00-17:00 マルコス監督と参加者の自由な意見交換会
- 17:00 閉会

『再び、お帰り』（2021/105分）監督：マルコス・ヨシ

1990年代以降の「デカセギ」現象と呼ばれるブラジルと日本の移民の流動に影響された日系人家族の絆を再構築する過程を追った自伝的ドキュメンタリー。監督のマルコスは、このデビュー作で家族の未来を保証したいという思いと、一緒にいることの不可能さとの葛藤を強調しながら、彼自身の家族の移民の軌跡を描きだした。世界最大の日系社会であるブラジルにおける日本人の存在を浮き彫りにしながら、移民によって引き裂かれた無数の家族の物語の一つである。

マルコス・ヨシ（監督）

ブラジルのサンパウロを拠点に活動する日系三世の映画製作者。サンパウロ大学で映画学を専攻し、映画制作を学ぶ。2016年よりエッセイ映画や一人称ドキュメンタリーの研究に取り組み、2018年に同大学博士課程に入学。2020年、長編デビュー作『再び、おかえり』のスピノフ作品として、ドク・フィクション

（docu.fiction）短編『In Her Care』を初監督。現在は名古屋大学に交換研究員として在籍中。

